

発刊にあたって

ここに、地域総合研究第17号発刊の運びとなった。第16号以降本誌は第1部研究報告、第2部申請書、第3部報告書、第4部講演録、そして第5部アニュアルレポートという5部構成になり、第1部から第4部までをPart1とし、第5部はPart2の別冊となっている。“地域立大学”を自認する松本大学の地域貢献活動全般の報告という本誌の位置付けが、上記の5部構成に表れている。

本センターの研究員は本学の全教員によって構成されている。本学発行の研究誌である「松本大学研究紀要」と本誌「地域総合研究」第1部は、査読付き論文誌として統一的な規定に基づいて出版されているが、本センター研究員である教員の研究成果のうち、特に「地域に関する研究」ならびに「教育改善・実践に関する研究」に限ったものが、本誌第1部の研究報告である。大学発行の研究誌として「松本大学研究紀要」との統一的な執筆規定や形式査読の運用はまだ始まったばかりで、執筆者、編集担当、査読者それぞれがまだまだ応力を感じながら安定点を探している。本学らしい適切な論文スタイルが確立できるよう、今後も研究誌規定や執筆要項の改善を図っていきたい。

第2部以降の内容は、従来の意味では大学発行の研究紀要に掲載されるような“研究”成果ではない。しかしこれらも、近年大学に求められている社会貢献や大学の改善を目的として、本学教員が時間をかけて取組んだ成果である。“研究業績”としてはふさわしくなくても、第2部から第5部に掲載されているような活動を本学教員が時間をかけて行っているということは、地域密着型の地方私立大学として誇れる実績である。この意味で、研究論文とは部を分けたうえで、本誌でこのような活動を活字に記録し出版していくことは、今後の本学の発展のために重要なことだと考える。

平成28年7月

地域総合研究センター長

室 谷 心